

# エルムだより

第4号  
2019.12

未来を担う卒業生紹介

## 「木と森の力を次世代に繋ぐために」

— 道産木材で知育玩具を開発 —

6



北海道大学校友会エルム  
HOKKAIDO UNIVERSITY  
ALUMNI ASSOCIATION ELM



# ホームカミングデー 2019 開催報告



▲歓迎の挨拶を述べる杉江会長

北海道大学ホームカミングデーは、卒業・修了生が母校に集い世代を超えた親睦を深めていただくことを目的として、キャンパスの紅葉や銀杏が色づく毎年秋に開催しているものです。

8回目を迎えた今年のホームカミングデーは、9月27日（金）～9月29日（日）の3日間天候にも恵まれ北海道の秋の爽やかな風を感じられるなか、多くの参加者が札幌キャンパスに集いました。

「歓迎式典」では、笠原理事・副学長から、「北海道大学143年の歩みと今」と題してこれまでの北海道大学の歩みと現在の取組について紹介があり、

「2026年の創基150周年を見据え、同窓生をはじめとするすべての関係者と力を合わせてさらに邁進していきたい。」とのメッセージが伝えられました。

続いて、杉江和男北海道大学校友会エールム会長から、参加者への歓迎の挨拶がありましたので、校友会会員の皆様に抜粋してご紹介します。

校友会会員が共有したいことは、北海道大学という学舎、すなわち「同じ家」で学び、或いは教えた「家族」のような存在であり、家族であれば普通にやること、例えば、在学生の人格形成や資金の援助、卒業生・教職員が交流しお互いに助け合う、「実家」である大学の発展を支援する、などを自発的に行うことだと思います。

国立大学が15年前に法人化された背景には、日本がゼロ成長から脱却し、プライマリーバランスを黒字化して、政府財政を健全化する狙いがありました。個々の大学にとって

も、経営の自主性が得られ、個性を活かした教育研究を行える、絶好の機会でありました。

一方、法人化以降、本学の運営費交付金削減率は約20%と7大学中で最大であり、大学改革に対する総合的評価は厳しいものがあつた、と言わざるを得ません。教育予算の在り方の議論は別にして、国立大学法人は、国からの資金が収入の多くを占める現在、経営の自由度が増し、資産の有効活用など規制緩和が得られ、運営費交付金が重点的に配分される「指定国立大学法人」に指定されることが不可欠であります。

この指定を受けるには、研究力・社会連携・国際化の3領域において、国内10位以内という条件がありますが、残念ながら本学は未だ条件を満たしていません。組織は、経営の独自性を得るため法人化するのであり、したがって、外部資金の確保が、指定を得る最重要条件であることは、これまで指定を受けた北大・九大を除く5大学、および東工大・一橋大の合計7大学の審査を見れば明白です。

世界の様々な課題の解決を目指す北海道大学は、世界から優秀な学生と研究者を惹きつける、北大ブラン

ドが必要です。

教育においては、新渡戸カレッジの実績を基にした、専門教育とリサーチのハイブリッド化を、研究においては、多様な分野・文化・人・組織を横断する場の構築がイノベーションを生み出す、それらが北大ブランドになると思います。

校友会エルムは、これまでのリサーチ支援に加え、北海道大学の将来に向けた、ブランド形成、自主財源増加に重点を置くべきと考えています。具体的には、1年前に創設した「北大みらい投資プログラム」を通して、苦学生の奨学金、留学資金、部活動・サークル活動資金など、寄付者が指定する用途に使われる継続的な寄附集めです。

また、企業・団体と大学との共同研究の拡充は、最大の自主財政効果を持ち、企業とウイン・ウイン関係を築ける方法です。しかし、何れも校友会エルムの会員が、草の根的に自発的に行動してくれることでしか、その成果は得られません。私達の「実家」が、日本の未来を創る人材を育成し、世界に貢献する研究ができるよう、皆様のご支援をお願いしてご挨拶とさせていただきます。

## ホームカミングデー2019報告

# 「OB・OG講演会及び 在学生との懇談会」開催

北海道大学校友会エルムでは、ホームカミングデーの主催イベントとして、令和元年9月27日（金）学術交流会館第1会議室において、「OB・OG講演会及び在学生との懇談会」を開催いたしました。

OB・OG講演会では、各企業や官庁で活躍する5名の先輩達からご講演いただき、志望した理由、現在

の担当業務、学生時代の就職活動、やりがいや今後の目標などについて本音で語られ、開催趣旨に相応しい講演会となりました。

講演終了後の懇談会では、既卒の卒業生にもご参加いただき、企業等における実際の勤務の状況など、活発な懇談が行われ、参加された学生からも非常に有意義な機会だったとの声が寄せられました。

当日、ご参加いただきました卒業生のほか、ご支援いただきました同窓会の皆様にも厚くお礼申し上げます。



▲講演会の様子



▲懇談会の様子

## 講演者

|          |                    |
|----------|--------------------|
| (株)二トリ   | 中野谷圭祐氏(理学部、平成22年卒) |
| 北海道庁     | 大森美香氏(法学部、平成17年卒)  |
| 札幌市役所    | 坪松耕太氏(獣医学部、平成20年卒) |
| 北海道電力(株) | 松井達也氏(法学部、平成21年卒)  |
| (株)北洋銀行  | 千葉史也氏(経済学部、平成21年卒) |

## Contents

### ホームカミングデー特集

|                           |   |
|---------------------------|---|
| ホームカミングデー2019開催報告(杉江会長挨拶) | 2 |
| 「OB・OG講演会及び在学生との懇談会」開催    | 3 |
| 「保護者会員懇談会及びキャンパスツアー」実施    | 4 |
| 学内施設紹介(保健センター)            | 5 |

〈表紙写真〉保護者会員キャンパスツアー 植物園





▲山田農場長による農場の説明



▲湯浅教授による博物館の説明

北海道大学校友会エルムでは、ホームカミングデーの主催イベントとして、令和元年9月28日（土）に校友会エルム保護者会員を対象に「懇談会及びキャンパスツアー」を実施いたしました。

懇談会は、ファカルティハウス「エンレイソウ」内の「レストランエルム」において、校友会エルムの委員会委員も交えて、昼食をとりながら、校友会エルムが実施する事業等の説明及び懇談を行いました。

## 「保護者会員懇談会及び キャンパスツアー」実施

ホームカミングデー2019 報告

引き続き、バスによるキャンパスツアーを行い、最初に訪問した植物園では、富士田園長により園内をご案内いただきながら詳細な説明をいただきました。次に訪問した生物生産研究農場では、山田農場長から、庁舎の屋上からの説明に続き、農場内をご案内いただき、最後に見学いただいた総合博物館では、湯浅教授による博物館の詳細な説明の後、各展示室でも解説をいただきました。

参加の皆様からは、「校友会エルムの活動と北大をより知ることができ、大変有意義であった。」との意見が寄せられ、保護者会員の皆様及び校友会エルムの双方にとって貴重な機会となりました。



▲「レストランエルム」での懇談会の様子



# ● 学内施設紹介 ●

## 【保健センター】



▲橋野センター長による診療



▲毎年、大学内で流行するインフルエンザ予防についての注意喚起を促す啓発ティッシュ。予防接種実施医療機関の案内も行っています。



▲保健センター外観

生カウセンリ  
グ、応急処置医  
療対応、保健・  
栄養指導などを  
行なっておりま  
す。また、産業  
医業務として職  
場巡視、裁量労  
働従事者面談、  
教職員健診結果  
フォローアップ

学内には皆さんが充実した学生生活を送るために様々な支援を行っている施設があります。今回、健康管理に関する支援を行っている保健センターから、寄稿いただきましたので、ご紹介させていただきます。

全国の大学の多くに、学生・教職員の健康管理目的で、保健センターあるいは保健管理センターが存在します。北海道大学保健センターでは、学生健康診断実施の他に、動物実験従事者IgE抗体検査、教育実習・介護体験受講者麻疹抗体検査、獣医学部ダニ媒介性脳炎ワクチン接種、運動部心電図健診、放射線同位元素取扱者健診、有害物質取扱者特殊健診、内科・精神衛生相談・歯科

などもしています。

保健センターでは、保健センター長の内科医1名、医学研究院と兼任の内科医3名・精神科医2名、北海道大学病院と兼任の歯科医1名、カウンセラー3名、看護師3名、検査技師1名、事務職員3名のスタッフが対応します。

在学中の学生が健全な状態で学生生活を送り、健康問題で学習や研究に支障をきたさないように、また、留学、課外活動、進学、就職が上手くいくように支えるのが保健センター教職員の本務です。健康面で心配なことや悩んでいることがあれば、遠慮なく保健センターにご相談下さい。

健康を取り巻く医療や保健の分野でも、目覚ましいスピードで、その価値観が変容しています。保健センター教職員は、人は人が支えるという、揺るぎのない信念を持ち、フィジカルな面から、メンタルな面から、ソーシャルな面から、そしてスピリチュアルな面からも、学生の健康維持・増進に寄与していきます。

保健センター長 橋野 聡

# 「木と森の力を 次世代に 繋ぐために」

道産木材で知育玩具を開発

合同会社 森のピタゴラス 代表社員 崎川 哲一

(樹木医、木育マイスター)



北大入学の経緯

巨木に感銘を受け  
樹木医をめざす

石川県に生まれ、代々続く米農家であったことから、将来は農業を継

ぐことも考えていましたが、祖父が中学生の頃に亡くなり、父は自営で仕事を行っていたことから兼業では田んぼを維持することができなくなり、宅地化が進むことによって、慣れ親しんだ自然や景色が変わってい

くことをもの悲しく感じていました。

そんな頃に、家族と一緒に訪れた屋久島で樹齢2000年を超える縄文杉をはじめ屋久杉の巨木達に触れ、自分も含めて多くの人が言葉を失うほどの感銘を受けている姿に木と森の力を感じました。それから、こんな木や場所を守る仕事をしたいと思い、樹木医を目指しはじめ、北海道への憧れもあり大学は北大農学部

の森林科学科に進学しました。

学生時代に最も力を入れたこと  
東日本大震災後に  
ボランティア参加

大学には強い志を持って入学したにもかかわらず、漫然と学生生活を過ごすなかで2年生の時に東日本大震災が発生しました。連日報道される災害の様子と自分の学生生活にギャップを感じて悩んでいたところ、北大の先輩に誘われ、福島第一原発事故の影響により屋外で自由に遊ぶことができない子どもたちが長期休みを北海道で過ごす「ふくしまキッズ」にボランティアとして関わることになりました。

それからこのふくしまキッズを通じて、NPO法人enotock(以下、enotock)をはじめ様々な活動や取組

に関わることになり、学部卒業時には自分の課題感ややりたいと思うことを実現できるこれらの活動に没頭していたこともあり、就職活動は行わず結果的に大学院に進むことになりました。

本学修了から起業まで

企業の内定を辞退して  
起業へ

大学院修了時には木材や林業に関わる企業を対象に就職活動を行い、複数の企業から内定をいただけましたが、選考過程の中で企業が掲げる理念と利益優先の現実や自分が目指す仕事に対する考え方とのギャップに納得できず、悩んだ結果内定を全て辞退することにしました。辞退した後、enotockの代表草野に今後について相談をしたところ「一緒に仕事を創る」ことを提案されました。

実際に今の起業に至ったのは、はじめはenotockと子どもの自然体験事業に取り組む中で、雨天時やむを得ず屋内で実施するプログラムの多くが、野外で体験できるそれとはかけ離れたものになることに気がついたことからでした。

そうして考えてみると、都会にいるような子ども達は、日常の生活の



なかでは自分達の地域の木や自然に実際に触れる機会というものはほとんどなく、子ども達の当たり前の生活の中に木や自然は少ないのだとも思いました。

そこで、子ども達の当たり前の生活に木を使ってアプローチできないかと考え、北海道の木を使って子どもたちが本当におもしろいと思えるような「おもちゃ」を作ってみることにしました。

構想から1年かけて、試しては作り直すことを繰り返し、ついには「欲しい」と言っていたく方も現れはじめたので、このおもちゃ「森のピタグラス」をきっかけとした木や森と子ども達を繋ぐ仕事をしようと起業することにしました。

起業から現在まで

## 人との繋がりのなかで 事業を拡大

2018年7月に法人を立ち上げ、ezrockでの活動をはじめ、これまでのつながりから様々な機会での森のピタグラスをご紹介させていただき、子ども達の反応も良く、「SAPOROベンチャーグランプリ2018」の受賞などもあり、少しずつ認知されていきました。

販売にあたっては大事にしていることがあります。すべて道産の木材で、かつ一度の生産が大きいわけではないので、どうしても価格が高くなってしまいうことから、子どもがこれのおもちゃに触れるかはご家庭の状況に依ってしまいます。私たちとしては、このおもちゃに限らず、体験や経験はすべての子ども達になるべく等しい機会があってほしいと考えており、まずは多くの子ども達が集まれる施設へ導入を進めています。現在、札幌市内の児童会館（指定管理者…公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会）に導入を進めていただいております、今年度には導入される館につき1〜2台で、これまでに70台を希望いただき、今後も増台したいと意向をいただいています。



▲木のおもちゃで遊ぶ子どもたち

## 今後に向けて 木や森と触れることが 当たり前になるように

私たちは子ども達がこれのおもちゃをきっかけとして、木や森に触れる機会を創りたいと考えており、例えば導入先である児童会館との繋がりから、子ども達に林業体験を提供するプログラムを実施するなど、活動の幅が広がっています。

今後も「森のピタグラス」を入口にこうした機会を増やす活動を広げていき、ここ北海道で子ども達が木や森に触れることが当たりまえのような暮らしや文化を創っていきたいと考えています。

## これから次代を担う世代へのメッセージ 自分自身の選択を

自分が色々な経験のなかから今の働き方を選択したこともあり、次の世代の人たちが仕事をはじめ何かを選択するときには、常に選択肢は多様であることを知ってくれたらと思います。誰かが言っていたことや社会で一般的と言われるものをただなぞるのではなく、自分自身が考える選択肢から悩み抜いて選ぶことで、選択した先がどんなものになっても

納得感をもって進められると思っています。

起業の際、役員の合意形成により会社を運営できる「合同会社」としたのもこのためで、利益だけではなく自分達が目指すミッションを果たしながら会社を発展させていきたいと考えています。



▲体験会イベントの様子

## Profile

〔略歴〕

2010年4月～2014年3月

北海道大学農学部森林科学科卒

2014年4月～2016年3月

北海道大学大学院農学院環境資源学専攻修了



## 校友会エルム会員のみなさまへ

メールアドレスの登録は  
済んでいますか？

会員限定の支援事業を  
受けるために  
登録が必要です。

「氏名・メールアドレス」を  
下記連絡先に  
送信のみでも OK！

お手続き方法

- ①PC またはスマホから 北大校友会エルム WEB サイトの「**会員登録**」をクリックします。  
<http://www.alumni-hokudai.jp/form>  
会員種別を選択して、会員情報を入力して下さい。(名前、アドレス等)
- ②登録が完了しました。今後は登録したメールアドレスに連絡が来ます！



### 北海道大学校友会エルム事務局

〒060-0809 札幌市北区北9条西6丁目 北海道大学 百年記念会館内  
TEL : 011-706-2101 FAX : 011-706-2010  
MAIL : kouyukai@general.hokudai.ac.jp HP : <http://www.alumni-hokudai.jp>